



「神戸大学ユネスコチェア」 2021年度教育プログラムを開催しました

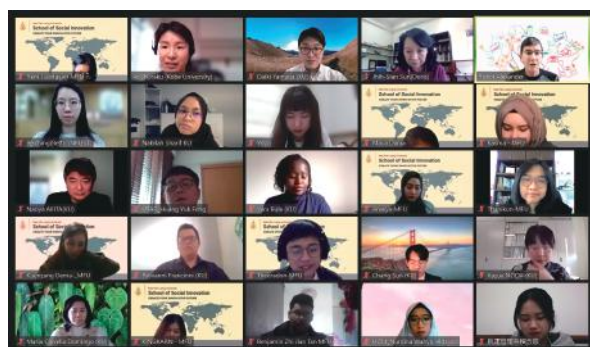
2021年11月13日（土）～12月4日（土）に、男女共同参画推進室が実施している神戸大学ユネスコチェア「ジェンダーや脆弱性に配慮した減災対策」の教育プログラム（国際会議）を開催しました。2021年度の会議は昨年度同様、すべてオンラインでの開催となりました。神戸大学が主催大学となり、ガジャマダ大学（インドネシア）と国立高雄科技大学（台湾）、トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学（マレーシア）、メーファールアン大学（タイ）の48名の学生と19名の教員が参加しました。神戸大学（国際人間科学部、海洋政策科学部（海事科学部）、保健学研究科、国際協力研究科）からは、11名の学部生と大学院生、5名の教員が参加しました。

2021年度の会議の副題は「こんな不平等はどう思う？コロナ・ワクチン+ジェンダー+脆弱性=??？」でした。男女共同参画推進室長のロニー・アレキサンダー教授による開会挨拶の後、初日（11月13日）は、所属大学ごとのプレゼンテーションが行われました。大学が位置する国や地域のワクチンの普及状況を紹介したり、ジェンダーとワクチン接種との関連性について議論したりしました。その後、所属大学混成の6つのグループに分かれて、「誰が脆弱か、なぜ脆弱か、ではどうすべきか」についての15分間のプレゼンテーションを完成させるという「宿題」が与えられました。12月4日までの約2週間、Web会議システムやLINE等を活用して、グループごとに「宿題」に取り組みました。初日はお互いに遠慮気味であった学生たちは徐々に打ち解けて、約2週間のグループごとの活動中も活発に議論を交わしていました。

12月4日のプレゼンテーションでは、高齢者や妊婦等、ワクチンにかんする情報へアクセスすることが難しかったり、ワクチン接種がためらわれたりする人びとが弱い立場に立たされていること、また、ヘルスケアワーカーをはじめとする、コロナにかんする命の現場で働く人びとが差別されていること等が課題として挙げられました。外国人（移民、難民等）やマイノリティ、障がい者、貧困層の人びとも、彼らが普段抱える課題ゆえに弱い立場に立たされているとの指摘もありました。

ウィルスへの不安による差別や偏見、嫌がらせが人びとを分断してしまいました。しかし、この会議でのディスカッションをとおして、学生たちは、コロナと戦っている場所は違っても多くの人が同じ不安を抱えていること、コロナという災害によっていっそう脆弱な状況に追いやられている人がいること、そして、不安や脆弱性の背景には国や地域共通の課題や解決策があることに気づいた様子でした。

正楽 藍（国際人間科学部 講師（グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）担当）



男女共同参画推進室協力教員のご紹介

藍原 祥子 農学研究科 助教

「男」と「女」について語るときに「仕事」と「研究」で考えること

私は「女性研究者養成システム改革加速」事業で「新規養成女性教員」として採用され、そのまま立場も変わらず10年を過ごしてきました。私が所属する学科における女性教員比率はわずかに上昇していますが、9割近くが私の年代とより若い世代で占められます。学生での男女比を見ますと農学部は私が着任した頃から半数は女性ですし、私の学科（40人弱）では学年によっては女性が8割となることもあります。私自身は学問を修める過程で男女比を気にしたことはありませんでしたが、その後の進路選択には女性の教授の研究室で学位を取得した影響がなかったとはいえないだろうと思います。最近、今まで取り組んできたのとは少し異なる分野の研究に参加することになりました。人間はまともに動くこともできない未発達な状態で生まれてきますが、周囲の成人たちにお世話をしてもらうにはどうにか働きかけていると考えられます。そのコミュニケーションの手段としての匂いの可能性を探ることになりました。動物の養育行動はホルモンで制御されますので、私たちもヒトのホルモンを調べます。「仕事」においてはライフステージに起因する違いを取り込むことを意識していますが、「研究」においては雌雄の生理的な違いを分けながら進めることになりそうです。

林 敦子 保健学研究科 准教授

保健学研究科の林敦子です。男女共同参画推進室協力教員で両立支援部会に所属しております。専門は神経心理学で、軽度認知障害や認知症の方の言語や記憶障害、地域高齢者の方々に運動を行っていただくことによって認知機能や精神機能にどのような影響があるかなどについて調べています。

私は30代でポストクの任期が終了してから、非常勤職や専業主婦をしつつ子育てをしておりました。研究職につきたいという気持ちはあったものの、なかなかうまくいかず諦めかけていたところ、学振RPDが創設されてなんとか研究職に繋がることができました。この制度で支援していただけたことは本当に有難く、世界が広がり心強く感じたことを思い出します。

本学に赴任してからは夫が単身赴任でなかなか両立がきつい時期もありましたが、子供の成長とともに、頼めば手伝いをしてくれるようになり徐々に時間に余裕が生まれるようになりました。昨年あたりから大学生の娘が夕飯を作ってくれることが増え、仕事から帰ってすぐ温かいご飯が食べられるって幸せだなと思っています。趣味もしたいと思いつつ日常的にはワークとライフ（＝家事？）のバランスをどうとるかという感じになっています。

理想的なワークライフバランスには程遠いですが、両立支援部会では気持ちにゆとりがうまれるような支援について皆さんと考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。





アレキサンダー ロニー学長補佐（ダイバーシティ担当）コーナー

「日本版タイトルナイン」があったら、日本の大学における性差別はなくなる？

最近、アメリカから様々な取材依頼を受けています。その一つはドキュメンタリー作成のためのインタビューで、先日神戸大学とアメリカをつないで実施しました。内容は、私の人生において大きなインパクトを及ぼした「タイトルナイン (Title IX)」という法律についてです。同法は、1972年に成立した公的高等教育機関における男女の機会均等を定めた連邦法の修正法です。「合衆国のいかなる者も、連邦政府から助成を受けている教育プログラムや教育活動において、性別を理由に参加を拒まれたり、利益の享受を否定されたり、差別の対象となったりすることがあってはならない」ということです。また、性的指向・性自認に対する差別は性差別だ(2000年)という最高裁判所の判決を受けて、タイトルナインによって禁止されている性差別は性的指向・性自認が含まれているという慣行的意見が2021年に出されました。

実は、タイトルナインのもとで改善を訴える動きはイエール大学から私の学生時代に始まりました。一つは、セクシュアルハラスメントを受けた学生が相談できる制度の制定を要求したAlexander v. Yaleという、初めてタイトルナインを大学セクハラの文脈でとりあげた裁判です。その成果として、大学におけるセクシュアルハラスメントを性差別としてみなされ、タイトルナインの適用範囲内と判断されました。また、私がメンバーだったボート部 (Yale Women's Crew) が全米一のチームだったにもかかわらず、男性チームに比べて貧弱な待遇を受けていました。1976年にその改善要求のため、「Title IX」を胸や背中に書き、上半身を裸にするデモを行いました。これらの取り組みのどちらも大きく注目され、国内外での反性差別運動の追い風となりました。

タイトルナイン成立50年を記念する活動の一は、Alexander v. Yaleの当事者(私がAlexander)に焦点を当てているドキュメンタリーの作成です。そこで、コロナのために来日が困難なので、監督が日本のクルーを雇って、iPad経由で私をインタビューしました。この取材を紹介することをきっかけに、タイトルナインを知っていただき、皆様と「日本版タイトルナイン」の是非について話しあえたらと思います。映画が出来上がったら、上映会でもしましょう!



お・知・ら・せ

神戸大学ユネスコチェアの継続申請が承認されました

2018年2月に採択された「神戸大学ユネスコチェア ジェンダーや脆弱性に配慮した減災対策」事業について、次期4年間の継続申請がUNESCOより承認されました。2022年2月より新たに「神戸大学ユネスコチェア ジェンダー、脆弱性、ウェルビーイングを中心に据えた減災対策 (Kobe University Chair: Gender, Vulnerability and Well-being in Disaster Risk Reduction Support)」が始動します。

「新型コロナウイルスが就労環境へ与えた影響に関する調査」結果を部局長会議で報告しました

この調査では、767人(21.7%)の方から回答がありました。自由記述欄にはのべ627件ものコメントが寄せられました。今後男女共同参画推進室は、次の1~4の検討を進めていきます。1. ワークライフバランスに関する相談窓口の設置について 2. 家事・育児を担当する男性教員への配慮の必要性について 3. コロナ禍における育児・介護の負担による業績への影響について 4. 学生のこどもの入園も含めた、学内保育園の必要性について

ワークライフバランスメーリングリストの開始しました

学内登録者間の情報交換を目的としたメーリングリストを開始しました。登録をご希望の方は、男女共同参画推進室までお問い合わせ下さい。

男女共同参画推進室にご意見・ご要望がありましたら、ホームページのお問い合わせからご意見箱を使ってお送りください。みなさまからのご意見・ご要望お待ちしております。

男女共同参画推進室HP <http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/>

